

(シャインマスカットを親にした品種にも応用できます。)

ブドウ (シャインマスカット)		令和4年 果樹病虫害防除暦				
回数	散布時期	病虫害の発生状況	薬剤と調合量 (100ℓあたり)	散布量 (10aあたり)	注意事項	作業メモ
晩腐病対策として果梗の切り残し・まきひげの除去、カイガラムシ類には粗皮はぎを徹底する。サビダニ類対策として、石灰硫黄合剤 20倍 (5ℓ) を用いる (展着剤・別表)						
①	発芽前 (3月下旬)	越冬病菌・害虫 黒とう病 つる割病 晩腐病 ブドウハモグリダニ	デランフロアブル 200倍 500cc	300ℓ	①黒とう病のり病枝は伝染源となるので除去し、圃場外へ持ち出す。 ②ブドウトラカミキリの秋防除を行わなかった場合は、2月下旬にトラカミキリ防除剤を散布する。 ③デランフロアブルは単用散布とし、石灰硫黄合剤とは散布間隔を5日以上あける。 ④晩腐病対策として、トップジン M ベースト3倍液を塗布してもよい。	
黒とう病対策として展葉初期にチオノックフロアブル 1,000倍 (100cc) をかけムラのないようにいねいに散布する (展着剤加用)。この時期以降病斑のみられる新梢や葉および花穂 (果房) は除去し、圃場外へ持ち出す。						
②	展葉5~6枚 (5月上旬)	べと病、黒とう病、つる割病が発生しはじめる。チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイが発生する。	ドーシャスフロアブル 2,000倍 50cc ③注意②参照 加用スカウトフロアブル 3,000倍 33cc	300	①べと病防除の最も重要な時期であるから、散布開始が遅れないようにする。 ②オウトウ・ウメの隣接園ではドーシャスフロアブルに代えて、アリエッティ水和剤 800倍 (125g) を用いる。 ③前年クワコナカイガラムシの被害が多い樹では、5月上旬にスタークル顆粒水溶剤20~40g/樹を、本剤1g 当り水1mlの割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を剥いだ部分に塗布する。 ④天候不順が予想される場合やべと病の発病初期には、オロンディスウルトラ SC 2,000倍 (50cc) をかけむらのないよういねいに散布する。 ⑤オロンディスウルトラ SC は、周辺に立木類がある場合は飛散しないように注意する。耐性菌の発生を防ぐため、連用をさけ、年1回の使用とする。	
べと病対策として散布量を守り、散布間隔をあけないようにする。						
③	展葉 10 枚 (5月中旬)	べと病、黒とう病、クワコナカイガラムシ、チャノキイロアザミウマ、アブラムシ類、フタテンヒメヨコバイの発生期。	オーソサイド水和剤80 800倍 125g 加用モスピラン 顆粒水溶剤 2,000倍 50g	300	①オーソサイド水和剤80は、キウイフルーツの隣接園では飛散に注意する。また、スモモに被害の発生する恐れがあるので隣接園では飛散に注意する。使用回数 (計3回まで) に注意し、収穫30日前までに用いる。 ②天候不順が予想される場合やべと病の発病初期には、ジャストフィットフロアブル5,000倍 (20cc) をかけむらのないよういねいに散布する。 ③ジャストフィットフロアブルは、周辺に立木類がある場合は飛散しないように注意する。耐性菌の発生を防ぐため、連用をさけ、年1回の使用とする。 ④クワコナカイガラムシの多い場合は、スプラサイド水和剤1,500倍 (66g) または、スタークル顆粒水溶剤2,000倍 (50g) を用いる。スプラサイド水和剤は、立木類に被害の発生するおそれがあるので飛散に注意する。	
ミカンキイロアザミウマ対策として、開花直前にアーデントフロアブル 2,000倍 (50cc) を用いる。						
④	開花直前 (5月下旬)	べと病、灰色かび病、黒とう病、うどんこ病、クワコナカイガラムシ、チャノキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマの発生期。	オーソサイド水和剤80 800倍 125g 加用フルーツセイバー 1,500倍 66cc	300	⑤ミカンキイロアザミウマの発生園では、除草を徹底する。アーデントフロアブルは、キウイフルーツの隣接園では飛散に注意する。 ⑥花かすをできる限りいねいに取り除き、灰色かび病の多い場合はスイッチ顆粒水和剤2,000倍 (50g) を用いる。 ⑦ハダニ類には、カネマイトフロアブル1,500倍 (66cc) を追加散布する。ただし、カキ・キウイフルーツの隣接園では飛散に注意する。 ⑧晩腐病・灰色かび病などの追加散布として、セイビアフロアブル20 2,000倍 (50cc) を用いてもよい。	
種なし栽培：第1回ジベレリン処理 (晩腐病対策として、処理後直ちに口ウ引きのカサかけを行う。)						
⑤	落花直後 (6月上旬)	べと病、灰色かび病、黒とう病、うどんこ病の発生が多くなる。晩腐病の感染期。クワコナカイガラムシ、チャノキイロアザミウマ、ハダニ類、ブドウサビダニの発生期。ハマキムシ類、トリバ類、クビアカスカシバの発生がはじまる。	ペンコゼブ水和剤 1,000倍 100g またはジマンダイセン水和剤 加用コルト顆粒水和剤 1,000倍 100g 3,000倍 33g	300	①この時期の散布が遅れると果粉の溶脱・果粒の汚染が心配されるので注意する。 ②落花後のチャノキイロアザミウマ防除から散布間隔をあけないようにし、散布後袋かけを早く行う。 ③チャノキイロアザミウマは袋内にも侵入するので、トメ金はしっかり固定する。	
うどんこ病対策として、トリフミン水和剤 3,000倍(33g) を用いる。						
⑥	小豆大 (6月中旬)	晩腐病の感染期。べと病、黒とう病、うどんこ病、トリバ類、クビアカスカシバの発生期。	ペンコゼブ水和剤 1,000倍 100g またはジマンダイセン水和剤 1,000倍 100g (収穫45日前までに散布) 加用テツパン液剤 2,000倍 50cc	300		

回数	散布時期	病虫害の発生状況	薬剤と調合量 (100ℓあたり)	散布量 (10aあたり)	注意事項	作業メモ
種なし栽培：第2回ジベレリン処理						
晩腐病・黒とう病対策として、仕上げのカサ・袋かけは早く行う。また、天候不順やカサ・袋かけが遅れる場合は、セイビアフロアブル20 2,000倍 (50cc) を用いる。ただし、小豆大以降の散布は果粉の溶脱・果粒の汚染が心配されるので注意する。チャノキイロアザミウマ対策として、袋かけが遅れる場合や、前年発生が多かった園では、アドマイヤーフロアブル 5,000倍 (20cc) を追加散布する。						
⑦	袋かけ直後 (6月下旬~7月上旬)	べと病、黒とう病の多発期。晩腐病の感染期。クビアカスカシバの多発期。ブドウサビダニ、チャノキイロアザミウマの発生期。	ICボルドー 66D 40倍 2.5kg または4-4式ボルドー液 (硫酸銅400g・生石灰400g) 加用コロマイト水和剤 2,000倍 50g	400ℓ	①コロマイト水和剤は、カキ・キウイフルーツの隣接園では飛散に注意する。 ②カサかけ園では、これ以降は棚上散布とする。 ③棚上にも十分散布する。 ④この時期からチャノキイロアザミウマの密度が急に高まるので、散布間隔をあけないように注意する。 ⑤チャノキイロアザミウマ、テムシ類、クビアカスカシバ、コガネムシ類の多い場合は、エクシレル SE 5,000倍 (20cc/3回以内) または、テツパン液剤2,000倍 (50cc/2回以内) を追加散布する。ただし、エクシレル SE は、キウイフルーツの隣接園では飛散に注意する。 ・クビアカスカシバ対策として、エクシレル SE・テツパン液剤を使用する場合は、主幹・垂主枝にもいねいに散布する。 ・エクシレル SE は、ボルドー液と混用する場合は使用直前に混用する。 ⑥ハダニ類対策として、ダニコングフロアブル2,000倍 (50cc) または、ダニサラバフロアブル1,000倍 (100cc) を単用散布する。ただし、キウイフルーツの隣接園では飛散に注意する。 ・ボルドーとの近接散布は14日以上間隔を空ける。 ・カサかけ園では房間散布とする。 ⑦病果は見つけしだい取り除き、圃場外へ持ち出す。 ⑧クワコナカイガラムシ対策として、8月中下旬にダントツ水溶剤4,000倍 (25g) を用いる。	
クビアカスカシバ対策として、サムコルフロアブル10 5,000倍 (20cc) をカサかけ・袋かけ後に散布する。周囲にデラウェアや立木類 (カキを除く) がない場合は、パダン SG 水溶剤 1,500倍 (66g) を用いてもよい。主枝・垂主枝にもいねいに散布する。						
⑧	7月中旬~下旬	べと病、黒とう病の発生期。さび病の感染期。チャノキイロアザミウマの多発期。クワコナカイガラムシの発生期。	ICボルドー 66D 40倍 2.5kg または4-4式ボルドー液 (硫酸銅400g・生石灰400g) 加用モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 50g (収穫14日前までに散布)	400		
⑨	8月上旬~中旬	べと病、黒とう病、晩腐病、灰色かび病の発生期。さび病の発生が続く。チャノキイロアザミウマの多発期。	ICボルドー 66D 40倍 2.5kg または4-4式ボルドー液 (硫酸銅400g・生石灰400g) 加用ディアナ WDG 10,000倍 10g	400		
⑩	収穫直後 (9月中旬~下旬)	べと病、黒とう病、さび病の発生が続く。ブドウトラカミキリの産卵期。	ICボルドー 66D 40倍 2.5kg または4-4式ボルドー液 (硫酸銅400g・生石灰400g) 加用スミチオン水和剤40 1,000倍 100g	400		スミチオン水和剤40は、カキ、リンゴ、キウイフルーツの隣接園では飛散に注意する。
⑪	10月下旬~11月上旬	ブドウトラカミキリの幼虫期。	トラサイドA乳剤 200倍 500cc またはラビキラー乳剤 200倍 500cc 浸透性展着剤 (別表)	300		①隣接園に収穫前の果樹がある場合は、飛散に注意する。 ②住宅隣接園では、トラカミキリ防除剤に代えてモスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) を10月中旬までに用いてもよい。 ③古づるや新梢によくかかるように散布する。

### 展着剤の使用法

(別表)

薬剤	適用作物 (農薬)	湿展性	浸透性	固着性	倍率	100ℓあたりの使用量
アプローチ BI	果樹 (殺虫剤、殺菌剤)	○	◎	○	1,000	100cc
	ぶどう (フラスター、ジベレリン)	○	◎	○	1,000	100cc
サントクテン40	果樹 (殺菌剤)	◎	◎	○	5,000	20cc
サントクテン80	果樹 (殺虫剤、殺菌剤)	◎	◎	○	5,000	20cc
ハイテンパワー	果樹 (殺虫剤、殺菌剤)	○~◎	○	—	5,000	20cc
ラビデン3S	果樹 (殺虫剤、殺菌剤、植物成長調整剤)	○~◎	○	—	5,000	20cc
マイリノー	果樹 (殺虫剤、殺菌剤)	○	△	△~○	10,000	10cc
ブレイクスルー	果樹 (殺虫剤、殺菌剤)	◎	△~○	—	10,000	10cc
K.Kステッカー	果樹 (殺虫剤)	—	—	○	3,000	33cc
アビオン-E	果樹 (殺虫剤、殺菌剤)	—	—	◎	1,000~1,500	100~66cc